目指すコンケン

高度な産業廃棄物処理技術で美しい地域環境の保全と企業活動の支援に貢献するコンケングループ(岡山市南区浦安本町)が、創業50周年の節目を迎えた。産廃の収集運搬から中間処理、最終処分まで一貫体制を整える一方、社員研修を通じてESD(持続可能な開発のための教育)活動に取り組み、環境教育に生かそうと施設整備を進める。「環境価値創造企業」を目指す近藤義コンケングループ代表と親交の深い有識者の方々に、環境活動を実践する理念や意義、展望などを語ってもらった。(文中敬称略)

座談会❶

出席者
近藤　義氏　コンケングループ代表
中平　徹也氏　津山圏域クリーンセンター・リサイクルプラザ所長
原　明子氏　ESDコーディネーター、岡山大学環境理工学部非常勤講師

司会　仮谷　寛志　山陽新聞社取締役営業局長

地域に新たなESD活動を推進

コンケングループ代表
近藤　義氏

こんどう・ただし　高校卒業後、整備工場勤務を経て1968年近藤建材を創業。82年に株式会社化し社長に。89年産業廃棄物中間処理の藤クリーンを設立。2007年公益財団法人岡山県暴力追放運動センターに暴力追放を宣言、賛助会員入会。15年近藤建材からコンケンに社名を変更し、グループ代表に就く。

津山圏域クリーンセンター・リサイクルプラザ所長
中平　徹也氏

なかひら・てつや　1977年公益財団法人岡山県環境保全事業団に入り、2004年同県地球温暖化防止活動推進センター事務局長。07年環境学習センター「アスエコ」を立ち上げ所長に。16年から現職。エコ博士としてESD視点の環境学習に力を注ぐ。

ESDコーディネーター
岡山大学環境理工学部非常勤講師
原　明子氏

はら・めいこ　2005年から専従職員として岡山市のESD推進を担当、14年の「ESDに関するユネスコ世界会議」の準備運営も行う。その後フリーとなり、文科省ESDコンソーシアム事業のコーディネーター、09年から岡山大学でESDの授業を担当。

■産廃業は社会に不可欠

司会　コンケングループは、藤クリーンのリサイクルセンター(岡山市南区藤田)で産業廃棄物の中間処理を手掛け、リサイクル100%を目指した研究開発を進めています。ビオトープを造り、子どもたちの環境学習に活用。社員のESD研修にも熱心です。本格的にESDに取り組むきっかけとなったのが、原さん、中平さんとの出会いだったと伺いました。

原　昨秋のESDの研修会で藤クリーンの方と出会い、学生を連れて見学に行かせてもらったのが始まりです。下見の際、近藤代表にお会いしたのですが「うちは迷惑産業だから」とおっしゃって。暴力団との関わりを10年前に絶ったことも伺い、びっくりしました。でも、産廃業者は社会になくてはならないし、迷惑産業でも何でもない。そう受け止める社会の仕組みを明らかにしていくことが持続可能な社会につながると思いました。

中平　昨年の環境教育ミーティングで、藤クリーンの方から環境学習をしたいと相談を受け、私も環境学習を広めたいし、企業で取り組んでいただけるなら喜んでお手伝いしますと申し上げました。原さんとは10年来の知り合いでタッグを組んでやっています。

近藤　2年前、同業者の石坂産業さん(埼玉県)が環境教育のための「体験の機会の場」(環境省)認定へトライしたらどうですか、とアドバイスをくださった。当社が生き残るには、リサイクルのレベルの高さを一般の方に認めてもらうしかないと思っていたので、認定をぜひ取ろうと準備を始めました。その頃お二人に出会い、社員がESDも知らないでは話にならないと、研修を始めたんです。

中平　代表の熱い思い、原さんのESD社員教育、私は施設内の看板やプログラムのアドバイスとそれぞれの力が合わさっていい事業展開になっていると思います。

原　初めてセンターを見学した時、社員皆さんのあいさつがすごくて、社内もきちんと整理整頓されていて驚きました。ただ、プラントを回ると、現場の方は大声であいさつをするだけ。ESDの観点から持続可能な社会をつくるために、社員全員が自分の仕事を分かりやすく説明できることが大切だと、研修を組みました。日頃汗や埃にまみれて産廃ごみを一個ずつ手で分別している人たちが、ただひたすらでも自分の言葉で説明する姿には本当に感動します。

近藤　それまで、責任者が一人で見学者に説明しても拍手をもらったことがなかったのに、担当者がやるとすごい拍手が起きる。みんな風呂に入っても練習をしていたと聞き、涙が出る思いでした。研修を受けることで社員のモチベーションがすごく上がっています。

■持続可能社会へ行動を

司会　岡山市では2014年秋に「ESDに関するユネスコ世界会議」の関連会議が開かれ、公民館を通じて地域に根差したさまざまな学びが行われました。

原　05年から「国連ESDの10年」が始まり、岡山市は初年度から取り組みました。社会教育の立場から公民館が中心となってESDを推進したことで有名になり、16年に「ユネスコ/日本ESD賞」を受賞。でも企業の参加はまだ少ない。産業部門が変わらないと前に進みません。そこへコンケングループが手を挙げてくださった。

司会　中平さん、環境学習を通じて私たちが学ぶべきことは。

中平　節電など環境に配慮した行動に取り組む人は多いが、なぜそれをやるのか、その結果どんな社会に結び付くのかを考えてもらう必要がある。環境学習もそういった視点が抜けていると長続きしないし、環境問題を自分ごととして受け止めてもらえません。コンケンの方々は持続可能な社会について学んだことで、誇りと自信を持って仕事をされているように見えます。ここでは、地球からもらった大切な資源をよみがえらせることが学べます。ESDは学ぶことがゴールではなく、行動することで初めて学んだことになります。

近藤　岡山県内でコンクリート殻から木くずまで、あらゆる複合的な建設廃棄物を1カ所で処理できるのは当社だけ。子どもたちへの環境学習に最適の施設になれます。

■来て見てESD学んで

司会　企業のESDへの取り組みが一層重要になってきます。

原　小学校4年生で家庭ごみについて学びますが、出前授業で日本のごみの構成を問うとほとんど家庭ごみだと思っている。多くが産業廃棄物だと説明するとびっくりされます。大人もそのことを知らない。私たちは家庭ごみだけを見て社会を考えていますが、その裏で社会を維持するために大量の産廃が生まれている。中間処理施設を見学するのは隠されていた部分を知っていく過程でもあるわけです。コンケングループがESDに取り組むのは、産廃処理の現実を地域や社会に開き、「見える化」する意義があります。

中平　環境学習には、体験、気付き、学び、自分ごとにするという流れがあります。知っているつもりの人が、リサイクルの現場を見て気付き、学んで、資源の大切さ、ありがたさを自分ごとにできる、そんな施設が増えるのは大変いいことです。国はトップランナー制度を家電や自動車分野に導入しました。燃費の良い車が出ると追いつこうと上を目指します。コンケングループには、ESDの視点を取り入れ環境学習のトップランナーとなって走ってほしい。他の企業もできるはずだとなれば、持続可能な社会に近づけると思います。

司会　最後に今後の展望を。

近藤　6月にコンケンガーデンがオープンしESDの学習施設としてようやくスタートが切れた。これから2、3年が大事で、施設や体制整備を急ぎたいと思います。

中平　多くの方に施設見学に来て、見てほしい。私たちも実践を重ねながらいろいろな場面に合わせたプログラムを作っていきたいと思います。そして、持続可能な社会を実現したいです。

原　社会を変えるような学習プログラムを作りたい。なぜこれだけごみが出ているのか、みんなが思いを致す内容にしたいですね。

ESDの理解へ研修に取り組むコンケングループ社員=岡山市南区浦安本町

■会社概要

株式会社コンケン
本社:〒702-8026 岡山市南区浦安本町 133-2、TEL 086-262-1234
サービス工場:〒701-0221 岡山市南区藤田 1664-8、TEL 086-296-6116
会長 近藤義/社長 河上一成/資本金 4,000万円/従業員 44人/事業内容 総合建築物解体工事、アスベスト除去工事、ワイヤーソー切断工事、ダイオキシン除去工事

藤クリーン株式会社
本社:〒702-8026 岡山市南区浦安本町 133-2、TEL 086-264-8775
リサイクルセンター:〒701-0221 岡山市南区藤田 1664-8、TEL 086-296-5771
最終処分場:〒704-8152 岡山市東区宝伝 4074
会長 近藤義/社長 松田一寿/資本金 2,000万円/従業員 47人/事業内容 産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物中間処理業、総合ビル管理、産業廃棄物最終処分業

企画・制作/山陽新聞社広告本部

コンケングループは、「環境価値創造企業」をめざす。

藤クリーン株式会社「最終処分場」

藤クリーン株式会社「品質管理室」

子どもたちの学びの場づくり

リサイクル100%を目指した研究

藤クリーン 重機
小割機
大きなコンクリートがらを投入できる大きさに小割します。その際、鉄とコンクリートを分離します。

http://www.konken.jp　コンケン　click
http://kk-fuji-clean.jp　藤クリーン　click

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

これからの未来へ向けた「SDGs」の導入。
SDGsの17の目標とその考えのもと、コンケングループでは、持続的な社会実現のため、さまざまな活動に取り組んでいます。

コンケングループ 創業50周年記念座談会「環境価値創造企業」

コンケンガーデン リサイクル身近に

座談会❷

出席者
近藤　義 氏　コンケングループ代表
藤岡　成介 氏　きびの森植物園マネージャー、株式会社タカショー顧問
田丸　和美 氏　但馬高原植物園植栽主任、兵庫県立フラワーセンター講師

司会　仮谷　寛志 山陽新聞社取締役営業局長

循環型社会の実現へ多様な産業廃棄物を一貫処理するリサイクルセンター

■代表の熱意と夢に共感

司会　コンケングループで産業廃棄物の中間処理を行う藤クリーンのリサイクルセンター内に6月、ビオトープを核にした「コンケンガーデン」がオープンしました。設置の狙いや特色、環境学習の場としての活用法などをお話しいただこうと思いますが、まず設計・監修に当たったお二人と近藤代表との出会いから伺います。

近藤　昨夏、センター周囲ののり面緑化を計画していたところ取引先から藤岡さんを紹介され、藤クリーンの社員が植物園の見学に伺った。藤岡さんも施設を見に来られて、いろいろご提案いただくようになったのが始まりです。

藤岡　最初はリサイクルセンターの緑化をと単純に考えていたのが、現地を見に行き代表のお話を聞いて一変。リサイクル企業として生きるために環境を改善していく、という思いを熱く語られました。私も常々そう感じていて、代表の理念に共感。そこで緑化整備をお引き受けする代わりに、植物の成長、経年変化をみる曝露試験をさせてほしいとお願いしました。

田丸　代表との出会いは藤岡さんからのご紹介。既にビオトープの計画が進んでいて、多様性の面でご協力できるかなとお会いしたら、とても熱心に夢を語られ感銘を受けました。お話も面白く、グループが取り組んでいる「環境価値創造」に参加させていただくことにしました。

きびの森植物園マネージャー
株式会社タカショー顧問
藤岡　成介氏

ふじおか・せいすけ　園芸肥料メーカー勤務を経て1990年に独立、ガーデニングのコンサルタントを手掛ける。園芸学校講師などを務め、14年からきびの森植物園（岡山県吉備中央町）マネージャー。

■再生資源生かした庭園

司会　田丸さん、ビオトープについて改めてご説明ください。

田丸　ドイツ語で、ビオはバイオ（生物）、トープは空間・エリアを意味します。「生物が生息する空間」程度の意味から「大自然における生物の多様性」といった大きな概念まで含みます。日本では主に、水辺を中心とした動植物が生存する空間を指します。

司会　近藤代表、コンケンガーデンを造った狙いなどをお話しください。

近藤　リサイクルセンターでは、近くの川の水をくみ上げて散水や清掃に活用。その後水質検査をし、浄化して川に戻しています。その水をもう一回池に引き込み、児島湖の生物を飼えるようにして循環できないかと考えました。まだビオトープという言葉も知らない頃です。全国で次々ビオトープが造られたが、ほとんど管理できていないとされる中、藤岡さんが設計を請け負い、田丸さんがせっかくなら大がかりなビオガーデン（庭園）にして、子どもたちがリサイクルを勉強した後、生き物を見たり写真に撮ったりできるようにしようと提案してくれたんです。

司会　藤岡さんはどんなコンセプトで設計されたのですか。

藤岡　循環型社会の創造を企業としてやっていく、ガーデンはそうした近藤代表の意義付けに加え、自然の大切さ、人と自然の共生を小規模ながらビジュアル化するのが大きな目的です。ビオトープの概念の中には「ミティゲーション」、人間の活動を他の生物に配慮しながら進めるという考え方があります。ただ、現場はコンクリート殻が多い土壌環境で、とても植物など植えられない。そこで盛り土をし、起伏を造って自然の森を集約した形に設計し、田丸さんに監修してもらいました。

近藤　すごいのは、砕石や古畳マットといった藤田の中間処理場で出た再生資源が全て使ってあることです。それが他のビオトープとは全然違う。

■環境改善のモデルにも

司会　今後、ガーデンやリサイクルセンターをどのように発展、活用していきますか。

近藤　ようやくスタートが切れた状態。センターでは各プラントのリフォームを急がねばならないし、外周を巡る長さ190㍍、幅6㍍のグリーンベルト（緑化回廊）も計画しています。子どもたちが総合的に環境の勉強ができるような施設を2年以内には形にしたい。近隣地には果樹園、畑半分ずつの体験農園も整備する予定で、岡山に環境学習や体験ができる所があるとアピールしたいですね。

田丸　再生資源を入れたら植物がダメージを受けるのではと予想していましたが、少し土壌改良をするだけで育っています。今夏はすごく暑かったので、他の園で駄目になった植物がたくさんあるのに、コンケンガーデンではガマの株が3倍の大きさになっている。科学的な裏付けの前に、生物が認めてくれているのはすごいことだと思います。グリーンベルトで緑をつないでいくという発想も素晴らしい。

藤岡　コンケンガーデンで環境改善の一つのモデルを作っていければ、さまざまな分野に応用できるのではと期待しています。もう一つは産業なので、商品開発が必要。まず藤クリーンで古畳を入れたマットを商品化しました。いろんな物を作っていければと思っています。

司会　最後に、子どもたちの環境学習に対する思いを。

近藤　環境教育の体験の場として、認定を絶対に取りたいと思ったのは、解体・産廃業者の存在意義を広く知ってもらいたいとの思いが背景にあります。「環境企業」になったと、同業者でなく一般の方に認めてもらえないと生き残れません。ESDを知ったのも後発でしたが、岡山県内で複合産廃の処理を実践しているのは当社だけ。本気を出せば見学から学習まで受け入れられると、全社で取り組んでいます。「環境価値創造企業」として認知されたいし、我々の業種がやらないと駄目だと思います。

藤岡　今の子どもたちは、自然の中で泥んこになったり木登りをしたりしたこともない子が多い。そういう時代なので仕方ないが、ではどういう形で自然の大切さを学ばせるか。永遠のテーマ、チャレンジであり、ずっと考えていきたいですね。

田丸　子どもたちに実際に体験してもらうことは大切。私たちは植物の切り口ですが、コンケングループには加えて再生廃材があります。子どもたちがそれらを使って自ら考えて何かを生み出し、将来のアイデアにつながっていく―そんな夢の広がる、クリエーティブな体験ができないかと期待しています。

但馬高原植物園植栽主任
兵庫県立フラワーセンター講師
田丸　和美氏

たまる・かずみ　1992年花と緑のまちづくりを目的に村岡ガーデンクラブを設立、代表に。「NHK趣味の園芸」や大学などの講師を務め、但馬高原植物園（兵庫県香美町）の責任者として園芸の普及に尽力する。

再生資源を使い豊かな緑や水辺を再現したコンケンガーデン=岡山市南区藤田

■グループ年表

1968(昭和43)年 8月	近藤建材創業
1979(昭和54)年 9月	有限会社近藤建材設立
1982(昭和57)年12月	株式会社近藤建材に組織変更
1985(昭和60)年 8月	岡山市南区新保から岡浦安本町132-2に本店移転
1989(平成元)年 1月	グループ会社として藤クリーン株式会社設立
1997(平成 9)年 8月	岡山市南区海岸通2丁目1-40-11に事業本部開設
2006(平成18)年10月	資本金を4,000万円に増資
2007(平成19)年 2月	公益財団法人岡山県暴力追放運動推進センターへ暴力追放を宣言、同時に賛助会員入会
2009(平成21)年 4月	事業本部を本店に組織変更
2012(平成24)年 5月	藤クリーン株式会社の資本金を2,000万円に増資
2015(平成27)年 9月	株式会社近藤建材から株式会社コンケンに社名変更
2017(平成29)年 9月	岡山市南区浦安本町133-2に事務所兼工場を開設
2018(平成30)年 6月	民間企業で初めて地域ＥＳＤ活動推進拠点に認定
2018(平成30)年 8月	コンケングループ創業50周年を迎える

わたしたちの仕事は、未来を創る「解体➔再生」事業。

コンケン オリジナル重機
ASSK75SRD
本体質量6～8t重機に、本体質量12～14t重機用の圧砕機を装着するために特別に製造した重機。

株式会社コンケン「解体現場」

藤クリーン株式会社「リサイクルセンター」

藤クリーン株式会社「汚泥改良プラント」

藤クリーン株式会社「廃プラスチック再生処理プラント」

50th anniversary
コンケン・グループ KONKEN

総合建築物解体工事
株式会社 コンケン
〒702-8045 岡山市南区浦安本町133-2　[コンケン] TEL.(086)262-1234

建設系産業廃棄物一貫処理
藤クリーン 株式会社
[藤クリーン] TEL.(086)264-8775